

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17109008	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	エピジェネティックな異常による 消化器癌発生の分子機構と診断・ 治療への応用	研究代表者 (所属・職)	今井 浩三 (札幌医科大学・学長)

【平成20年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

研究目的の一つである、消化器癌発生における epigenetic change の解析については、WNT, Ras, p53 など細胞増殖におけるシグナル経路に関連する遺伝子の機能異常が epigenetic change と密接に関連していることが明らかにされている。また、炎症と発癌との関連についての新しい知見も得られ、着実に研究が推進、進展しており成果が挙がっている。

もうひとつの研究目的である診断、治療への応用については、基礎的な検討が進展し、4本の特許出願がされており、成果が期待できる。

研究成果の発表については積極的に行っており、2007～2008年に Gastroenterology, Cancer Research, Clin Cancer Research などの質の高い雑誌に掲載されている。

研究組織としては有機的連携が保たれ、多数のセミナー開催や情報交換を行い、効率的に研究が進んでおり、購入された設備等も有効に活用されている。

研究目的の達成見込みについては、上記に述べた如く、消化器癌の発生機序における分子機構の解析について着実な進展が認められ、また、臨床応用の面についても準備が出来つつあり、期待通りの成果が期待できる。

【平成22年度 検証結果】

研究進捗評価結果どおりの成果が達成された。